

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-139	14-042	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Three-year changes in drinking patterns in Spain a prospective population-based cohort study. スペインにおける飲酒パターンの3年間の変化 前向き住民を対象としたコホート研究		
執筆者		
Soler-Vila H, Galán I, Donado-Campos J,Sánchez-Alfonso F,Valencia-Martín JL, Morilla F, León-Muñoz LM,Rodríguez-Artalejo F.		
掲載誌		
Drug Alcohol Depend. 2014 Jul 1;140:123-9. doi: 10.1016/j.drugalcdep.2014.04.006.		
キーワード		PMID
アルコール、飲酒パターン、前向きコホート研究、スペイン		24799288
要 旨		
<p>目的： 地中海の国での飲酒パターン及び関連する要因の3年間の変化を検討した。</p> <p>方法： 18歳から59歳のスペイン人の2,254名を対象としてベースライン時(2008-2010)と追跡時(2012-2013)の間の飲酒パターンを追跡した。このベースライン時と追跡時の変化は、多項式ロジスティック回帰を用いて検討した。大量飲酒は、前月において一回以上の、男性40g/day以上(女性24g/day以上)の飲酒エピソード、過飲(binge drinking)は、前月において一回以上の男性80g以上(女性60g以上)の飲酒エピソードと定義された。: 飲酒パターンは(1)非飲酒者、(2)禁酒者、(3)過飲の無い適量飲酒者、(4)過飲の有る適量飲酒者、(5)過飲の無い大量飲酒者、(6)過飲の有る大量飲酒者の6つに定義した。</p> <p>結果： 参加者の45.2%は、追跡期間の飲酒パターン変化がみられた。ベースライン時の24%以上の非飲酒者と19.4%の禁酒者が追跡時には過飲の適量飲酒者であった。過飲の無い大量飲酒者から過飲の無い適量飲酒者への変化が最も大きかった(57.1%)。大量飲酒パターン(過飲のある適量飲酒: 50.8%及び過飲のない多量飲酒 B: 48.4%)から、少量飲酒パターンへの変化が最も大きかった(禁酒者: 37.5%、過飲のない適量飲酒者: 66.7%)。男性、若年者、現在喫煙者は、一回または両方の評価時において、大量飲酒パターンをしめす傾向が高かった。既婚者又は就職者は、両方の調査において少量飲酒パターンを報告する傾向が高かった(p < 0.05)。身体的 QOL の改善や運動は追跡期間中の少量飲酒パターンから大量飲酒パターンへのシフトに関連した(p < 0.05)。</p> <p>結論： スペインにおける飲酒パターンは3年で、適量の飲酒パターンへ移行する傾向を示した。アルコールの健康について影響を調べる時に、アルコール摂取の反復調査が飲酒パターンの誤分類やバイアスを減少させるだろう。</p>		